

法政大学大原社会問題研究所

所 報

(2009. 5. 1～ 6.30)

□人 事 (5月1日付)

リサーチ・アシスタント

久世 律子

矢延 絵美

□刊行物

『大原社会問題研究所雑誌』607号 (2009年5月)

『大原社会問題研究所雑誌』608号 (2009年6月)

『日本労働年鑑』第79集 (2009年版, 旬報社)

『占領期後期政治・社会運動の諸側面 (その1)』
(ワーキング・ペーパーNo.33)

□図書受入 (5月)

	和 書	洋 書	計
購 入	59	22	81
受 贈	26	1	27
合 計	85	23	108

□図書受入 (6月)

	和 書	洋 書	計
購 入	68	24	92
受 贈	40	1	41
合 計	108	25	133

□閲覧サービス (5月)

閲覧

開館日数 23日

閲覧人員 41名

貸出図書 60冊

コピーサービス

学外 23件 4132枚

学内 11件 223枚

□閲覧サービス (6月)

閲覧

開館日数 26日

閲覧人員 38名

貸出図書 49冊

コピーサービス

学外 18件 2957枚

学内 6件 81枚

日 誌

□5月

8日 共同研究プロジェクト

「わが国の盲導犬制度と視覚障害者就労シ
テム」研究会

テーマ: 「全国盲導犬施設連合会元幹事職
からの私見」

報告者: 日比野 清 (佐野短期大学教授)

12日 見学来所: 堀越作治氏 (元朝日新聞社) ほか
1名

13日 見学来所: 柳弘氏 (釧路商工会議所ファイ
ン大使), 永田哲朗氏 ((株) 出版ビ
ネス)

14日 見学来所: 米谷匡史氏 (東京外国語大学教授)

16日 国際交流公開講演会 (於: 法政大学市ヶ谷キ
ャンパスボワソナードタワー)

テーマ: 「Why women-only unions are
necessary: The experience of Japan
and Korea (女性ユニオンの必要
性: 日本と韓国の経験に基づいて)」

報告者: Kaye Broadbent (ケイ・ブロードベン
ト) 氏 (Senior Lecturer, Department
of Employment Relations, Griffith
Business School, Griffith University,
Australia)

20日 運営委員会

議題①客員研究員の承認について

②自己点検・評価表の決定について

③ILOシンポジウムのテーマについて

④創立90周年記念フォーラムの後援と
協賛のお願いについて

⑤研究所プレゼンテーションについて

⑥その他

- 21日 戦後社会運動史研究会
 テーマ：「終戦直後における協同組合運動の再建—日本協同組合同盟成立に注目して」
 報告者：山縣宏寿氏（明治大学大学院生）
- 23日 社会政策学会で研究所ブース開設（於：日本大学）（23日；若杉隆志，24日；柴田光代）
 社会政策学会第118回大会で学会賞受賞
 二村一夫（名誉研究員）学術賞『労働は神聖なり 結合は勢力なり』（岩波書店，2008年）
 榎一江（専任研究員）奨励賞『近代製糸業の雇用と経営』（吉川弘文館，2008年）
 加齢過程における福祉研究会
 テーマ：「介護福祉士の仕事と社会的役割」
 講師：是枝祥子氏（東京都介護福祉士会会長）
- 25日 ゼミガイダンス：長沼建一郎（社会学部教授）
 演習 12名
- 26日 事務会議
- 27日 研究員会議
 月例研究会
 テーマ：「連合政策の展開の分析—政治・経済・組織問題をめぐる対立軸の視点から」
 報告者：鈴木玲
- 30日 現代労使関係・労働運動研究会
 渡辺あさみ氏「長時間労働と雇用管理—新日本的経営以降の雇用管理に注目して」
 山垣真浩氏「解雇規制の擁護—労働法学者の言う“労働の従属性”を経済学はどう理解すべきか」

□6月

- 1日 見学：小野亘（一橋大学附属図書館）他3名
- 3日 「研究所案内」新版発行
- 4日 研究所プレゼンテーション（五十嵐仁）
- 17日 『大原社会問題研究所雑誌』編集委員会運営委員会
 議題①08年度事業報告の承認について
 ②08年度決算の承認について
 ③客員研究員の件について
 ④ILOシンポジウムについて

⑤創立90周年記念フォーラムの協賛について

⑥研究所プレゼンテーションについて

⑦その他

- 23日 事務会議
 OISR.ORGに高野岩三郎「日記」を公開
- 24日 研究員会議
 月例研究会
 テーマ：「日本の経営パターンリズム」
 報告者：榎一江
- 27日 加齢過程における福祉研究会
 テーマ：「訪問看護師の仕事と社会的役割」
 講師：上野桂子氏（全国訪問看護事業協会常務理事）
 学術研究振興基金「労働運動再活性化の国際比較」プロジェクト第2回研究会
 「再活性化」概念の検討，アンケート調査の内容の検討，ほか
 シンポジウム 児童労働の現状とNGOの政策提言—インドとEUの経験に学ぶ（主催：児童労働ネットワーク，大原社会問題研究所）
- 30日 消防訓練（図書館・研究所棟）

大原社会問題研究所雑誌 No.611・612
 (2009年9・10月号)
 2009年10月25日発行
 定価 2,000円(本体1,905円)，年間購読料12,000円
 編集(兼)発行人 法政大学大原社会問題研究所
 編集長 鈴木 玲
 所長 五十嵐 仁
 〒194-0298 東京都町田市相原町 4342
 電話 042 (783) 2307

投稿募集

本誌は社会・労働問題に対する論文、調査報告を募集しております。下記の規定に基づいてご投稿ください。

投稿規定

- 1 投稿原稿は2部とし、ワープロ作成による未発表のものに限ります。
- 2 原稿の分量は、原則として20,000字以内（図表を含む）とします。
- 3 原稿には、審査に資するため、600字以内の要約を添付してください。
- 4 原稿の本文や注などで、執筆者が特定される記述をしないでください。
- 5 原稿の採否は、本誌編集委員会が指定する審査員の査読を経て、本誌編集委員会が決定します。
- 6 初めて投稿される方は、研究歴など簡単な履歴を添付してください。
- 7 掲載原稿には、所定の原稿料をお支払いいたします。

【原稿送付先】

〒194-0298 東京都町田市相原町4342

法政大学大原社会問題研究所

『大原社会問題研究所雑誌』編集委員会

論文執筆要領

論文を執筆される場合には、下記の点に留意してください。

原稿はある程度の行間を取ってプリントアウトしてください。原則として原稿は返却しませんので、控えを確保して下さい。

- 1 一般的な原則
 - ① 横書きとする。
 - ② タイトル、氏名の次に簡単な目次をつける。
 - ③ 目次と本文の各節には「.」のない1 2…を用い、「はじめに」「おわりに」には番号を付さない。
 - ④ 原稿の最後に、執筆者名（ひらがな）、肩書き（所属、職名）を記入する。肩書きは大学の場合には、学部、研究所等の名称まで表記する。
 - ⑤ 注をつける場合には、各章ごとに分割せず、最後に一括し、通し番号をつける。
 - ⑥ 図、地図などは、可能な限りトレース済のものを提出する。
- 2 注記の方式
 - 日本語の図書・論文の場合
 - A 日本語で書かれた図書については、①著者名、②書名（書名は『 』で囲む）、③出版社名、④発行年（原則として西暦）の順に書く。ページ数を記入する場合には、発行年の次に記入する。
 - B 著者が2人の場合には、両者の姓名を書く。3人以上の場合には、「他」の方式も可とする。
 - C 論文については、①執筆者名、②論文名（「 」で囲む）、③掲載雑誌名（『 』で囲む）、④巻号、⑤発行年月日の順に書く。
 - D 注の最後は、かならず「。」で止める。
 - 欧文の図書・論文の場合
 - A 欧文の図書については、①著者名、②書名、③発行地（あるいは出版社名）、④出版年を書く。書名は、イタリックにするので、下線を引くなどして書名の部分を他の部分と区別する。
 - B 論文の掲載雑誌名は、イタリックとする。
 - C 再出を示す「ibid.」「op. cit.」などもイタリックにする。
 - D 注の最後は、かならず「.」で止める。

以上